

## 住民健康診査日程表

8月	会場	対象地区
1日(水)	南方町イオン跡地第1期仮設住宅団地集会所	南方町イオン跡地第1期、2期仮設住宅団地、登米市内外周辺に居住の町民
2日(木)	平成の森	田の浦、石浜、名足、中山、馬場
3日(金)	活性化センターいずみ ※会場が変更となりましたのでご注意ください。	伊里前上、伊里前下、館浜、泊浜、港
5日(日)	活性化センターいずみ	弘川、上沢、樋の口、中在、石泉、葦の浜、寄木
6日(月)	入谷公民館	入谷地区全域
7日(火)	戸倉中学校仮設住宅団地集会所	戸倉地区全域
8日(水)	(午前) 登米市津山公民館	横山第1期、2期仮設住宅団地、横山幼稚園跡地仮設住宅団地、津山若者総合体育館仮設住宅団地、登米市内外周辺に居住の町民
	(午後) 志津川保健センター	汐見、南町、十の一、十の二、五の二
9日(木)	志津川保健センター	田尻畑、廻館、旭ヶ丘、小森、八幡町、五の一
10日(金)	志津川保健センター	林、大久保、中瀬町、保呂毛
19日(日)	志津川保健センター	本浜、大森第一、大森第二、天王前、新井田、沼田
20日(月)	志津川保健センター	袖浜、荒西、荒東、平西、平東
21日(火)	志津川保健センター	双苗、西田、細浦、清水、大上坊、全地区未検者

※受付時間は午前9時30分から11時と午後1時から2時30分までです。

8日(水)のみ午前9時30分から10時30分と午後1時30分から2時30分までとなりますのでご注意ください。

※肺がんCT検査を、11月13日(火)から15日(木)に実施します。

対象は、50歳、51歳、55歳、56歳、60歳、61歳、65歳、66歳、70歳、71歳の方です。

肺がんCT検査を希望される方は、今回の胸部レントゲン検査と喀痰(かくたん)検査を受けずに、上記健診会場受付または志津川保健センターに8月31日(金)までに申し込みください。

## 子宮がん検診・骨粗鬆症検診

8月	場所	対象地区
27日(月)	活性化センターいずみ	歌津地区にお住まいの方
28日(火)	8:30~9:00	活性化センターいずみ 歌津地区にお住まいの方
	12:30~13:00	ベイサイドアリーナ 志津川地区及び町外にお住まいの方
29日(水)	ベイサイドアリーナ	志津川地区及び町外にお住まいの方
30日(木)	ベイサイドアリーナ	志津川地区及び町外にお住まいの方

受付時間	
子宮がん検診	骨粗鬆症検診
8:30~9:00	9:00~9:30
9:30~10:00	10:00~10:30
12:30~13:00	13:30~14:00

※申し込みされた方には、検診のお知らせと受診票をお届けします。

※受診票は住民登録に基づき作成されていますが、現在のお住まいに近い会場で受診することも可能です。

※当日の持ち物 ・ 受診票 ・ 保険証 ・ 無料クーポン券(平成24年度がん検診推進事業対象の方)

## 大腸がん検診無料クーポン券対象者の方へ

今年度41歳、46歳、51歳、56歳、61歳に到達される方へ大腸がん検診無料クーポン券が9月に交付されます。検診を希望する方は、8月24日(金)までに志津川保健センターにご連絡ください。

問い合わせ 志津川保健センター ☎46-5113

## 庄内の風 66

友好町の山形県庄内町を紹介する情報コーナー

### 天然ガスを利用したガス事業

電力需要がひっ迫するなか、天然ガスは地球温暖化の原因のひとつといわれている二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)等の排出が少ない、環境性に優れたエネルギーとして注目を集めています。

庄内町では、昭和35年に東京に本社がある企業が油田を発見。原油とともに天然ガスが自噴したことから、町営ガス事業を開始しました。ガス料金は東北一安く、町内の約78%、5,421世帯(H



町営の球形ガスホルダー

24.3月現在)が使用しています。

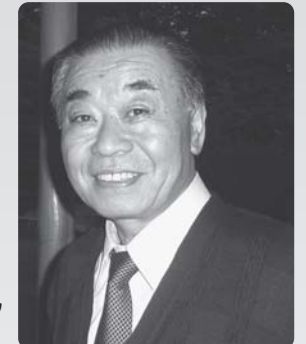
産出される天然ガスは、1日当たり平均で約1万2,300立方メートル。町営ガス1日分の供給量に相当します。これに、海外から輸入した液化天然ガスを混合したものを、町が受け入れ、球形のガスホルダーに貯蔵、管理します。その後、ガスは、地下に埋設されてある導管を通り、各家庭に送られます。町では、定期的な検査や耐震性の高い管への入れ替えなどをおこない、災害時にも安定した供給ができるよう務めています。



天然ガスを採取する装置

### 復興応援大使 リレー通信 ②

各地で活躍する南三陸町復興応援大使の皆さんの声をお届けする「復興応援大使リレー通信」を連載しています。  
今回は、戸倉出身で、東京理科大学理学部嘱託教授の小野寺祐夫さんです。



復興応援大使  
小野寺 祐夫さん  
(足立区)

### 長かった私の初航海

先の夢大使リレー通信(平成22年12月号)で「50年前のチリ津波体験」と「旅立ちの準備」について述べました。その当時、平成23年3月11日の東日本大震災が襲って来るとは思ってもいませんでした。亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りし、また、財産や仕事を失って今も仮設住宅で過ごされている被災者の皆様に深甚なるお見舞いを申し上げます。

今回は社会への初航海の体験を述べることにします。多くの先人が歩んだ道と同じように、一人旅の不安を抱えた初航海が、修学旅行以来の上野駅から始まりました。実家の援助が難しいことを覚悟していたので、授業料が安くしかも働きながら勉強できる大学の受験を目的にした旅の始まりです。幸い、数学担当の恩師が薦めてくれた大学に滑り込み入学となりました。この大学は学業と仕事を両立できるシステムをとっており、卒業生は全国の中・高等学校の理数科教員として活躍していました(一例が明治時代の夏目漱石の「坊ちゃん」)。

入学後、大学の掲示板で見つけたアルバイト先を学生課に紹介してもらい、生活費を確保しました(今もこの制度が継続されているかどうか?)。学費の一部はチリ津波被災者の子弟を対象とした旧志津川町と日本育英会にお願いしました。帰宅途中の電車内で見知らぬ中年男性から「俺も勉強したかったけど、頑張れよ」と、強引にお札を渡された事もありました。この頃の

私は周りから見ても冴えない姿だったので、休日は横浜や鎌倉の名所・旧跡を周り、ハイキングを楽しんでいました。

仕事と学業の関係を「成人の日を祝う集い・はたちの声」(横浜市教育委員会)として綴りました。同じ大学、同じ道を歩んだ戸倉中学校の後輩がいたことを後になって知りました。こんな中で、講義中の先生から依頼された実験研究を「無鉄砲」にも引き受け、大学卒業時にこれが学術雑誌に掲載されました。更なる無謀な冒険が、大学院博士課程(5年間)への進学でした。この期間でも特別奨学生や土日のアルバイト生として生活しました。

学業と仕事を両立出来たのは高度経済成長期の日本、家族、社会の人々の温かい支援によるものです。また、故郷が育んでくれた頑丈な身体、当時の若さ、そして最後まで諦めない心が9年間を支えてくれたと思います。これらの事は肉親、親類、知人を失った被災者及び財産と仕事を失った被災者から見れば、取るに足らない出来事かも知れません。しかし、口数は少ないけれど、忍耐力の強さは東北人の誇りです。「最後の千分の一秒まであきらめない」、「努力は天才に勝」、そして「今が大切」を大事にして生きてきました。これまでを教訓にして、前向きな気持ちを持って、皆様が南三陸町の今後の復興に、益々、精励されますことをお祈りいたします。